

科目	ゼミナール I (S)	担当	長澤 省吾	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

スポーツ指導者/体育科教員は、技術的な指導だけでなく全体的な指導・個別的な指導が大切である。また、「わかる」と「できる」を熟考することはスポーツ/運動の現場では有意義な指導法になり得る。本ゼミでは、指導法の基礎理論を学びグループワークや指導体験を通じて指導者としての気質を高めることを第一の目標とする。

また、卒業論文に向けてのテーマ模索とその手法について学ぶことを第二の目標とする。

【履修注意】

積極的に授業に参加し、気質の高い指導者になれるよう訓練する。
全出席すること。

【評価方法】

原則として、欠席回数は3回までとする(遅刻・早退・見学は0.5回とみなす)。

出席点40% プレゼン30% 貢献度30%で総合評価する。

【試験について】

指導者実践の評価とレポート作成を行う。

再試験対象者の条件：行わない。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。本科目は2単位科目なので90分の講義に対して90分以上の自宅学習(予習、復習)が必要である。

【教科書】

資料を配布する。購入教科書なし。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの進め方について
2	卒業論文のテーマに向けて	テーマに沿った測定/調査方法を考える
3	卒業論文作成に向けて	論文の作成意義について考える
4	指導者としての心構え	指示、言葉遣い、姿勢・態度など基本的な理解
5	指導者としての実践 I	担当ペアの主要な狙いを明確にする
6	指導者としての実践 II	担当ペアの主要な狙いを明確にする
7	指導者としての実践 III	担当ペアの主要な狙いを明確にする
8	指導者としての実践 IV	前回の担当ペアの反省点を踏まえて行う
9	指導者としての実践 V	前回の担当ペアの反省点を踏まえて行う
10	指導者としての実践 VI	前回の担当ペアの反省点を踏まえて行う
11	指導者としての実践 VII	より細部にわたって行き届いた指導方法を目指しながら
12	指導者としての実践 VIII	指導案の精度を高め、それに準じて実践する
13	指導者としての実践 IX	より完成度の高い指導方法を考えながら行う
14	指導者としての実践 X	より完成度の高い指導方法を考えながら行う
15	卒業論文の概要	これまでに決まっていることの概要のプレゼンと討論
16	レポート提出	ゼミナール I の活動に関するレポート